

令和 7 年度第 1 回

浜松市障がい者自立支援協議会企画会議会議録

1 開催日時 令和 7 年 5 月 22 日（木） 午前 10 時 00 分～正午

2 開催場所 浜松市役所 3 階 32 会議室

3 出席状況

所属	出席者氏名
障害保健福祉課 企画・相談グループ	大庭 靖史
	鈴木 史哉
	白柳 麻衣子
中央福祉事業所社会福祉課 障害福祉第二グループ	石川 鉄兵
中央福祉事業所社会福祉課 東社会福祉グループ	中谷 知由
中央福祉事業所社会福祉課 西社会福祉グループ	杉森 泉
中央福祉事業所社会福祉課 南社会福祉グループ	欠席
浜名福祉事業所社会福祉課 北社会福祉グループ	山本 睦代
浜名福祉事業所社会福祉課 障害福祉グループ	島田 佐栄実
天竜福祉事業所社会福祉課 障害福祉グループ	戸塚 美幸
浜松市障がい者基幹相談支援センター	後藤 翔一朗
	岸 直樹
	野島 和樹
	小杉 茉巳
	本宮 早奈映
中障がい者相談支援センター	藤川 晴海
東障がい者相談支援センター	平野 明臣
西障がい者相談支援センター	袴田 章彦
南障がい者相談支援センター	大場 拓弥
北障がい者相談支援センター	金森 勇人
浜北障がい者相談支援センター	大柳豆 勇太
天竜障がい者相談支援センター	那須 将司
医療的ケア児等相談支援センター	阿部 祥美
	高 真喜

4 議 事 内 容

- (1) 協議会体制について
- (2) 専門部会活動報告
- (3) 市全体会の議題について
- (4) 各エリアでの課題集約、共有について
- (5) 共同支援会議の新スキームについて
- (6) グループホーム評価について
- (7) 共同支援会議について（東エリア）
- (8) 各エリアからの情報

5 会議録作成者 障害保健福祉課企画・相談グループ

6 記 録 の 方 法 発言者の要点記録
録音の有無 無

7 会 議 記 録

(1) 協議会体制について

資料に基づき説明

〈質疑・意見〉

・ なし

(2) 専門部会活動報告

資料に基づき説明

○こども部会

○強度行動障がい予防体制ワーキング

○生活部会

○余暇支援ワーキング

○就労部会

○就労選択支援ワーキング

○相談支援部会

○強度行動障がい児者支援プロジェクト

〈質疑・意見〉

・ なし

(3) 市全体会の議題について

資料に基づき説明

〈質疑・意見〉

- ・ 前回の浜松市自立支援協議会市全体会において、エリアで行った活動から企画会議や専門部会等への繋がりが見えづらいという意見があった。まずは企画会議において議論すべき内容について次回の企画会議では整理し、報告したい。

(4) 各エリアでの課題集約、共有について

資料に基づき説明

〈質疑・意見〉

- ・ これまでの企画会議では、報告ベースの案件が多く、エリアでの課題等について議論ができていないように感じられた。そこで、今年度は、あらかじめ年間の企画会議における議題案を示させていただいた。
- ・ 年間の議題案について事前に示してもらうことで、各回で話し合う内容のイメージが付きやすいが、議題について焦点を絞ってく必要があると感じる。
- ・ 昨年度、共同支援会議についても取り扱ったが、報告ベースの会議となっていた。
- ・ 共同支援会議から地域課題を抽出するためには、企画会議でどのような議論をすべきか整理する必要があるのではないかと。
- ・ エリアでの活動について、その動機と結果や効果を報告できれば、解決した課題と引き続き検討すべき課題の整理が分かりやすくなるのではないかと。
- ・ エリアの中での課題について、どこで議論して、どこで解決していくのかのスキームが分かりにくいと感じている。また、取組みの結果、課題が解決されるものばかりではないため、結果の明記することが必須となると厳しい部分がある。
- ・ エリアでの取組みの結果については、考えられる課題に対して、どこに焦点化して取組んでいったのかを分かるようにし、仮に成果が出なかったものについて、なぜ成果がでないのか検証する仕組みとしたらどうか。
- ・ エリアから抽出した課題を市全体へつなげていくためには、流れやスキームを分かりやすくする必要があり、各会議で議論した流れがわかるフォーマットがあると、次の段階を見据えて議論ができる。
- ・ 共同支援会議では、各段階での議論の内容を記載するフォーマットになっているが、その結果を利用者に報告するところは明記されていない。利用者への結果報告も一つのフォーマットで整理できるとよい。
- ・ 共同支援会議に挙げられていないケースの中にも地域課題があるのではないかと考えている。そのようなケースからの課題抽出の方法について検討していきたい。

- ・ 計画相談がかかわっていないケースの課題についても、共支援会議のスキームに沿って課題を整理することで地域課題の焦点化ができるのではないかな。
- ・ 相談支援センターのケースについても、共同支援会議のフォーマットを活用し議論できるよう、様式等の見直しを含めて検討していく。
- ・ 共同支援会議を実施した際に、企画会議終了後、利用者に対して、市での検討結果をフィードバックしていく仕組みも検討していく。

(5) 共同支援会議の新スキームについて

資料に基づき説明

〈質疑・意見〉

- ・ 企画会議で検討した内容を利用者の方へフィードバックするため、記録表の様式内に専用の枠を記載してもよいのではないかな。また、その際には利用者へのフィードバックした結果ではなく、フィードバックする内容という欄にて記載することで、企画会議で検討した内容と伝えるべき内容の整理ができる。
- ・ 利用者へ検討内容のフィードバックをする場合、フィードバックが終わった後の動きや経過についても一定時点で確認し、企画会議等で報告できる場があるとよい。また、経過を確認することで、何か課題が見つければその課題について焦点化できるような仕組みが検討できるとよい。
- ・ エリア全体会での検討する際、タイミングによっては次の全体会まで期間が空いてしまうため、臨時開催する等の柔軟な対応をする必要がある。
- ・ エリア全体会で、共同支援会議について議論する際に、報告ベースとなる傾向があったため、会議方法については工夫が必要である。

(6) グループホーム評価について

資料に基づき説明

〈質疑・意見〉

- ・ 評価項目について、評価を3段階等で設定してはどうか。
- ・ グループホーム評価の評価基準については、指定基準を満たした上でのプラスアルファの質の部分について評価できればと考えている。
- ・ グループホームとの意見交換は、地域連携推進会議と一緒に検討できるような形となるのが望ましい。
- ・ 現行の体制では、エリアで評価と意見交換を行うには時間が足りない。今後、対象のグループホームが増えていくことを想定し、体制の見直しを検討する必要がある。

- ・ 今回の資料で示した焦点をポイントに意見交換していただきたい。ただし、全ての項目を網羅する必要はない。
- ・ グループホームに対する評価と意見交換の仕組みを分けた方が、地域での関係づくりをしやすい。評価については、別組織で行うことについて検討する必要がある。
- ・ 現状、エリアによってグループホームの設置数が異なり、負担感の偏りがある。エリアに限定しない方法で評価の場を設けてはどうか。例えば、日中サービス支援型グループホームの設置数等を考慮し、複数エリアで分担する仕組みを検討してはどうか。

(7) 共同支援会議について（東エリア）

資料に基づき説明

〈質疑・意見〉

- ・ グループホーム利用中に、一時的にショートステイを使うことができる場合について整理する必要がある。
- ・ 生活保護施設の活用ができたかもしれない。利用要件についても整理していただきたい。
- ・ 今回の事案は、専門部会化しない。

(8) 各エリアからの情報

- ・ 医療的ケア児等相談支援センターから、市全体会の議題について、前年度から自立支援協議会と他協議会と連携について、各協議会の機能の住み分けについて検討できるとよい。

次回企画会議

日時：7月24日（木）10時～